

視覚障害をお持ちのお客さまへの対応訓練 4月6日（木） 西武球場前駅構内にて 「視覚障害をお持ちのお客さまへのご案内セミナー」を実施

西武鉄道株式会社（本社：埼玉県所沢市、社長：若林 久）では、4月6日（木）、狭山線西武球場前駅構内（埼玉県所沢市）において、「視覚障害をお持ちのお客さまへのご案内セミナー」を実施しました。

これは、春の全国交通安全運動の実施項目に「視覚障害がある人への声かけの強化」が加わるなど、視覚障害をお持ちのお客さまの安全を推進する機運が高まる中、視覚障害をお持ちのお客さまに、より「安全・安心」に当社線をご利用いただけるように、公益財団法人日本盲導犬協会神奈川訓練センター協力のもと、当社の役員の意識向上および、駅係員・乗務員の対応スキル向上のために実施したものです。

今回のセミナーは、当社取締役会長の後藤高志・代表取締役社長の若林久も参加、冒頭で取締役会長の後藤が「このようなセミナーを通じ、視覚障害をお持ちのお客さまのご案内方を学び、全社員に浸透させることで、少しでもホームからの転落事故を防いでいくことが、我々鉄道事業者の役目です。」と発言し、セミナーの重要性を強調しました。

参加者 58 名は、前半 1 時間は机上の講習を受け、その後の 1 時間は実際に目の見えない状態での歩行体験などの実技体験講習を実施し、視覚障害をお持ちのお客さまが「安全・安心」に当社線をご利用いただけるよう、熱心に講習を受けました。

このたび、当社における視覚障害をお持ちのお客さまが「安全・安心」にご利用いただくための各種取り組みをまとめましたので併せてご紹介します。

今後も、より多くのお客さまに「安全・安心」を提供し、快適にご利用いただけるようさらなる努力を実行してまいります。

詳細は、別紙のとおりです。



冒頭挨拶する当社取締役会長・後藤



実技・体験講習の様子

【別紙】

視覚障害をお持ちのお客さまへのご案内セミナーについて

1. 実施日：4月6日（木）
2. 実施場所：狭山線西武球場前駅構内
3. 実施時間：10：00～12：00
4. 受講者：役員および駅係員・乗務員（58名）
5. 実施内容：
 - （1）列車内机上講習（1時間）
 - ・盲導犬・視覚障害者に関わる法律
 - ・視覚障害者の歩行
 - ・視覚障害者の駅での歩行
 - ・駅での声のかけ方、ご案内の仕方について
 - （2）実技・体験講習（1時間）
 - ・盲導犬ユーザー、白杖歩行者の手引き
 - ・2人1組での手引き
 - ・危険回避の対応

◇お客さまのお問合せ先

西武鉄道お客さまセンター TEL.(04)2996-2888

音声ガイドのご案内により、メニューをお選びください。

[営業時間：平日9時～19時 土休日9時～17時]

以 上

【参考】

視覚障害をお持ちのお客さまの「安全・安心」対策について

1. ホームドアの整備について

ホームドア整備については、現在、池袋駅で設置を進めているほか、練馬駅、西武新宿駅、高田馬場駅、所沢駅、国分寺駅の5駅に2020年度までに設置する予定です。



池袋駅ホームドア

2. 内方線付き点状ブロックの整備

目の不自由な方にホームの内側をお知らせして、ホームからの転落を防止し、ホーム上での安全を提供します。1日の乗降人員が1万人以上の駅への整備を積極的に推進するとともに、1万人未満の駅についても整備を進めています。2016年度までに計58駅に整備し、2017年度以降には8駅を整備する予定です。



内方線付き点状ブロック

3. 列車非常通報装置の設置

ホーム上で、お客さまや列車運行への危険がある場合、列車の運転士に知らせる装置です。非常通報ボタンを押すとランプが点滅しブザーが鳴動します。当社線全駅に設置しています。



非常通報ボタン

4. ホーム監視用テレビ（ITV）の設置

列車の長編成化により、列車の前部や曲線ホームでお客さまの乗降状態が確認しづらい場所では、補助手段として80駅にカメラおよびモニターを設置しています。

5. 列車進入警報装置の設置

列車が駅に近付くと、線路脇に取り付けられた黄色回転灯が点灯し、同時に警報音で列車の進入を知らせます。



列車進入警報装置

6. ホーム下避難場所の設置

お客さまが線路上に転落し、列車が接近している場合に安全を確保するためのスペースです。75駅179ホームに設置しています。



ホーム下避難場所

7. 足元注意喚起灯の設置

列車とホームの間が空いている急曲線ホームに設ける装置で、列車が接近するとホーム側の足元注意喚起灯が点滅し、お客さまの乗降の安全を見守ります。萩山駅に設置しています。



足元注意喚起灯

8. 音声転落防止装置の設置

ホームからの転落防止を防ぐ安全対策として、音声で足元への注意を促す転落防止装置です。大泉学園駅など9駅に設置しています。

9. 転落防止ゴム

列車とホームの隙間が広い駅のホーム側面の一部に、くし型状のゴムを設置し、隙間を狭めることで転落を防止する装置です。稲荷山公園駅の上りホームと大泉学園駅の下りホームに設置しています。

10. 連結部転落防止放送装置の設置

運転室付の車両同士を連結する際、連結部分に大きな隙間が生じます。このような場合にお客さまが転落する事故を防止するために、案内放送が流れる装置を一部の運転室付車両に設置しています。列車の中間部に運転室付き車両があり、停車中にドアを開けている際に注意喚起の音声が流れます。

11. 踏切事故防止キャンペーンの実施

高齢者や障害をお持ちの方などが踏切を渡りきれず事故にあうことを防ぐために、踏切道において通行者に対し事故防止を呼び掛ける啓発活動を行ったほか、踏切事故防止PRポスターを全駅に掲出しました。さらに、主要踏切道に踏切横断時の注意喚起看板を設置し、踏切事故防止に努めています。

12. 駅ボランティア

所沢市と協力し、2004年度より「駅ボランティア」を開始。所沢市内の駅を利用する中学生以上の方、秋草学園短期大学「地域保育学科」の皆さまなどが活動しています。駅をご利用のご高齢者や障害をお持ちの方のために、きっぷの購入や手荷物の運搬、電車の乗り降り補助などをサポートしています。



駅ボランティア体験会